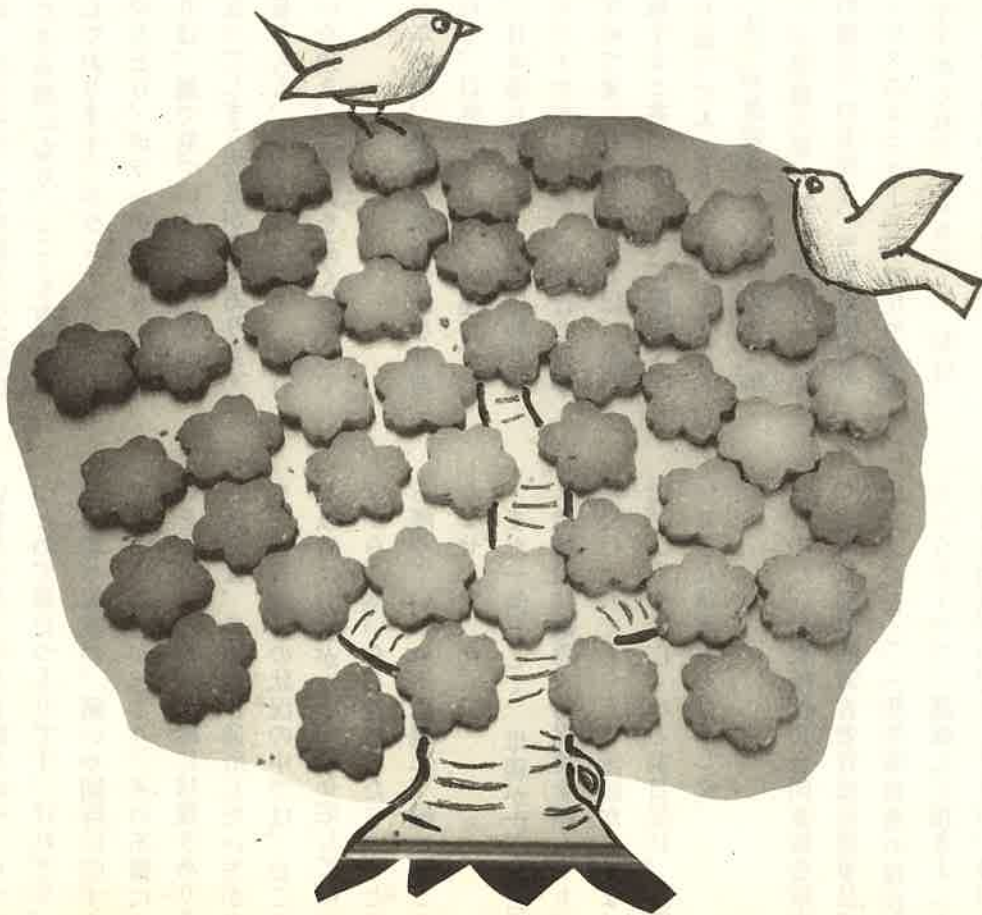


# WORKS

ISSUE  
**69**  
1997  
SPRING



型抜きクッキーで

桜の花を咲かせました。

# 名東福祉会の現状と課題

社会福祉法人 名東福祉会

理事長 加藤 奈々枝

名東福祉会の各施設は、平成八年度は、一歩一歩着実に内容を充実して、各利用者たちの福祉向上につとめてまいりました。

各施設では、ボランティアの皆さんが沢山参加してくださる様になり、とても有難く、心から感謝しております。ボランティアさんと利用者のやりとり、ボランティアさんと職員とのやりとりは、端で見る私も心が和んで、嬉しくなってしまう光景が多々あります。家族会の皆さんも、心一つにして、各行事のお手伝いを頂き、ご努力を高く評価しております。

ここ二、三年の間、職員の異動がかなりありましたけれど、以外とスムーズに運び、利用者たちは、日々落ち着いて、作業に取り組んだり、バスハイクや、グループ旅行の行事を難なくすすめて来られましたことは、職員の努力を評価すると共に、すべてに感謝です。さて、振り返ってみると、平成二年には、

「福祉関係八法」が改定され、引き続き「障害者プラン」が平成六年に打ち出され、「地域福祉体系の確立」の方向で、当名古屋市も、在宅福祉サービスのメニューの多様化や充実を積極的にすすめられているものと、私は、つい先日まで、そう思っております。

障害者プランの中では、市町村の役割を繰り返し強調していますし、住民参加による地

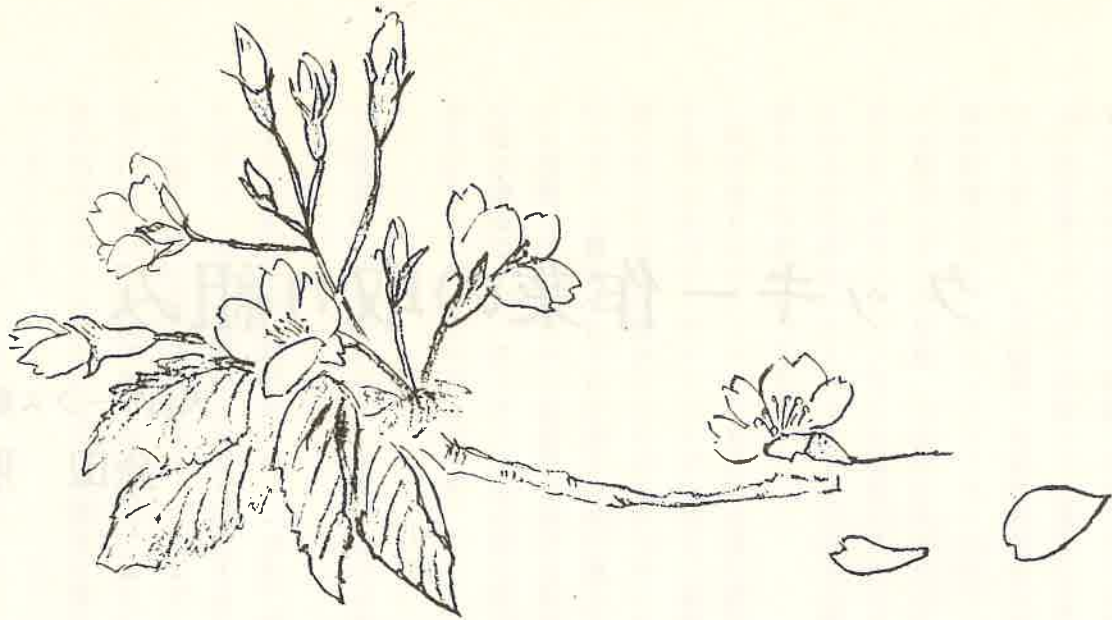
域福祉システムへの展開が進んでいるものと思っております。

名東福祉会としましては、その基本的理念にもとづき、できる限りのサービスの供給につとめて来たつもりです。けれども、時には、障害者や家族の、願いや期待に応ずることができないことが起こり、その不備につらい思いをすることも、実際には度々ありました。

例えば、各施設に通所したい方が来られても、定員満杯の状況の中では、おことわりする以外に方法がなく、「在宅して待っていますから、空いたら連絡ください」と泣きながら帰っていかれる両親に、慰めのことばもありませんでした。

また一例として、母親が亡くなられる際、入所施設に緊急一時保護を頼んでも、なかなか受け入れてもらえない施設がありませんでした。ようやく亡くなる前日位に、無理にお願ひできた状況もありました。

このたび名東福祉会合同家族会研究会として、東京都知的障害者育成会理事長緒方直助氏をお招きし、「知的障害者の現状と課題」というテーマで、講演して頂きました。講演要旨は別紙でお配りしますが、講師との雑談の中で、ある統計によると、名古屋市は、北海道の次に、福祉対策が遅れていると聞いて、



私は驚いてしまいました。

全国一の通所授産所設置数だと思っ  
ている裏側に、レスパイトケアもない、グループホームも数少ない、入所更生施設も全く数少ない、緊急一時保護も八方手をつくさないと預かってもらえない、等々がひしめいていました。

先ず年老いた親たちの不安が頭をよぎりま  
す。そして親自身が生活をささえられなくな  
ったとき、重い障害者たちは、たちどころに  
通所できなくなる事実もあります。

何故できないのか、どうして対策を打たな  
いのかと言っているだけではだめで、先ずは  
地域生活支援システムを早急に検討し、実際  
に動き出すべきだと痛切に思いました。

当福祉会の各施設の位置づけは、日中の活  
動の場として存在しますが、どうしたら地域  
で生活してゆくことが保障できるのか、日中  
の活動の背後にある、夕方から朝までの生活  
の部分をもどくようにとらえて行くのかが、こ  
れからの課題だと思えます。

一、自分の生まれ育った地域であたりまえ  
の暮らしができるように

二、ひとりひとりの多様化されたニーズに  
答えられるように

三、様々な選択肢を用意し、サービスを受  
ける側が自分で選べるように

この三つは常に心がけてすすめて行くこと  
に変わりはありませんが、今年はい具体的に、  
平成九年度の目標を次のようにきめ、進めて  
ゆきたいと思っております。

#### 平成九年度 実行目標

一、入所更生施設実行委員会による施設構  
想の作成

二、準備資金積立の会発足

三、援助者（後援会）のさらなる募集

四、父親の会の充実

五、重度者のためのグループホームの検討

六、職員研修を始め各種研修会の実施

七、地域生活支援システムの検討

どうぞご協力をよろしくお願いします。



# クッキー作業の取り組み

天白ワークス職員

会田 照美

天白ワークスでのクッキー作業は、五年前（平成四年）に『今、できることをきちんと毎日やれる場所』として、型抜きクッキーのできる利用者で始めたということです。

現在、平成六年に定着したメンバー（午前六名、午後二名）で、午前中にクッキーの型抜き、午後に袋詰め・生地づくりを中心に行っています。このように午前と午後とも流れがある程度決まってきたので、利用者は準備する段階からどう動いたらよいか、何をしたらよいか十分、分かっているようです。それは、クッキー作業の行程がはつきりと分かりやすいものだからだと思います。型や生地にいくつ種類もあるので、選択できる楽しみもありますが、クッキーの型抜きだけではどうしても同じことの繰り返しとなりがちにもなります。

このような形ですすめてきたクッキー作業ですが、現在、その内容についての次の三点を中心に検討を始めています。

一点目は、『全体的な流れ』についてです。利用者も作業に慣れ、生産量も増えてきました。それにつれて職員がクッキーを焼くことや検品に費やす時間などが増えることで、生地のばしの必要な利用者には生地のばしを

するだけの関わりが中心になってしまうことも多くなってきました。また、声かけする回数も減ってきて、利用者は淡々と型を抜いている状況もみられるようになってきました。それだけクッキー作業から“ゆとり・余裕”の部分が減ってきているのではないかということ、“ゆとり・余裕”のある内容への見直しがされています。

二年位前より特定の型しか抜いていなかった利用者にも「他の型もやってみようか」という働き掛けも始めてはいますが、これも同時にゆつくりと利用者に関わる時間があって始めて生きてくるものではないでしょうか。

製品として販売しているクッキーの質も大切なことではありますが、その一方でつい忘れがちになってしまうクッキー作業を通して利用者どう関わっていくのかということもこれまで以上に考えていく必要性を強く感じています。そのためにも“ゆとり・余裕”を持って利用者と接していくことが大切になってくるのではないのでしょうか。

二点目は『新しく始めたクッキー』についてです。

昨年四月より型抜きクッキーとは違う方法を取り入れたクッキーも作りはじめています。これは、ハンドミキサーで生地づくりか

ら始め、一個一個をすくって天板の上に並べていくという方法で、職員・ボランティアさんと利用者との一対一の関わりを重視して行ってきました。その結果、特定の利用者との接点が増えたり、ボランティアさんの行うことが明確になった反面、全体的に時間がかかると、ボランティアさんの負担が増えてきているのではないかとといったデメリットの部分もいくつ分かかってきました。

利用者もこのクッキーにも興味を示し始めてきているので、デメリットが少なく、利用者者に合った方法は何かよいのかをクッキーを行っている職員それぞれが違う方法で試している段階です。どういう方法で定着するかは今後の課題ですが、クッキー作業に何らかの変化になるのではないのでしょうか。

三点目は『午後のクッキー作業』についてです。

十二月から午後に選択メンバー（10名）がクッキー・陶芸・散歩の三つより選択することが始まりました。これに伴い、これまで二名で行っていた午後のクッキー作業に最大二名の利用者が入ることになり、雰囲気も変わってきています。

今までは、職員と利用者との関わりが中心でしたが、職員を介さなくても利用者同士で

物を渡してやっていたり、声をかけながら進めていくといった場面も生まれはじめています。そのような関係も大切にしていきながら、午後の時間に何ができるのかということも考え始めています。

以上三点を中心にクッキー作業の内容について考えていきたいと思っています。

また、日常的に行っているクッキー作業とは違いますが、年に数回午前のクッキー作業のメンバー以外の利用者に対してクッキーの型抜きが体験できる機会を設けています。普段は、スペース的・衛生的な問題からどうしてもクッキー作業を行える利用者が限られてしまいます。そのかわりにいつもはクッキーづくりを行えない利用者に製品としてはなく、『作って食べる』ために行っています。

そのようなクッキーづくりを楽しみにしている利用者もいますし、それぞれが楽しんで型抜きをしている姿を見ると、それだけクッキーづくりそのものは取り組みやすいものだということが改めて感じます。

それだけクッキー作業は天白ワークスにとって、なくてはならないものになってきているのではないのでしょうか。基本的な方向性は変わりませんが、そのようなクッキー作業を

利用者にとっては分かりやすく、取り組みやすい型抜きクッキーを中心に新しいことも取り込みながらすすめていきたいと思っています。また、クッキーづくりの楽しい雰囲気を大切にしながら、それぞれの利用者とのゆとりを持って関わっていけるクッキー作業になるように常に考えていきたいと思っています。



## テーブルマナー実習会

デイケア はまなす職員

本田 功

テーブルマナー実習会と聞いて皆さんは、どのようなことを想像しますか。

おそらく正装した姿でテーブルに向かい、その卓上にはフォークやナイフがあらかじめ何本も用意されているようなところをイメージされている人もいらっしゃると思います。が、残念ながら今年度より、はまなすで行われているテーブルマナー実習会はそのイメージとは少し違います。はまなすで行っているテーブルマナー実習会は簡単に言えば、『外食会』みたいなものだと思わしていただければよいかと思えます。はまなすでの一日の活動時間の半分（AM9:00～PM1:30）を使って食事+レクレーションを利用者も職員も楽しもうとって企画がはまなすのテーブルマナー実習会です。

まずなぜテーブルマナー実習会が企画されたかというところ、ある時、はまなすの給食でナイフとフォークを使用するメニューが出た時に、利用者が上手にそれらを使って食事していたのを職員が見て、それならば外食してみ

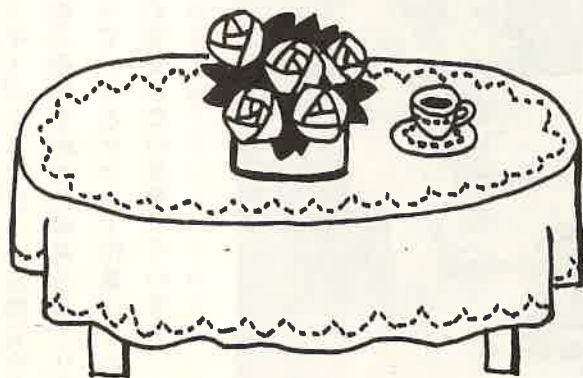
たらどうだろうかといった、簡単な思いつきから始まった企画です。

今年度のテーブルマナー実習会は、利用者本人と利用者の家族にアンケートをとって、なるべく利用者本人と家族の希望通りになるように班編成をして、第一回目は昨年十二月十七日・西洋料理、第二回目は二月十二日・イタリア料理、第三回目は二月十八日・中華料理、第四回目は二月二十五日・和食の四つのグループに分かれて行いました。

利用者のほとんどは外食などあまり経験がない人達なので、最初は職員も不安でしたが、実際行ってみると利用者のみなさんは、職員が想像していたより大変落ち着いていて、普段施設では給食を十分もかからず食べてしまっている、そのまま食堂を出て行くような人や、長時間同じ場所に座っているのが苦手な人なども、コース料理の最初の前菜から最後のデザートまでとくに怒ることもなく、静かに座って運ばれてくる料理を食べていました。その姿を見た時は、この企画を行って本当によかったと心から思いました。利用者も満足したのか、テーブルマナー実習会が終わって、はまなすに戻ってきた時はほとんどの人が笑顔でした。

今回のテーブルマナー実習会を通して個人的に学んだことは、利用者も少しの援助があ

れば、どんな外に出ていろいろなことを楽しむことができることです。本当のことを言えば、今回のテーブルマナー実習会では皿の一枚や二枚割れることは覚悟していましたが、しかし利用者の一人一人が外食を楽しんでくれたこと、また障害を持った利用者にあたたくかか迎えていただいたレストランの皆さんのおかげで今回のテーブルマナー実習会は成功することができました。



## 「次男出産」

ダイケア はまなす職員

清水 秀剛

この日は朝から大雪のおそれがあるとテレビで言っていた。

上の子供を実家に預け、妻が冗談っぽく「こういう日にかぎって陣痛がくるんだよね」と言う。いつもどおり一日が過ぎ、夜十一時頃「本当にきたかもしれん」と。こういう日にかぎって、外は予報どおり雪が降っている。もう、すっかり積もっていた。病院に連絡を取り、車を走らせる。真っ白になった車が何台も歩くようなスピードでゆっくりゆっくり走っている。こんな時に事故でもしたら縁起が悪い。先を急がずにゆっくりゆっくり車を進める。

病院に付き、すぐに陣痛室へ。自分も白衣を着て一緒に入る。

長い長い夜が始まった。間隔のあいた陣痛が何度もやってくる。

一時間、二時間、時間がたつにつれ、間隔は短くなる。しゃくり上げる痛みに顔をゆがめる妻、少しでも痛みが柔らぐようと背中

をさする。だんだん余裕はなくなり必死だった。少しづつ外が明るくなる。まだまだ続く痛み、もう横にもなれずイスをかかえこむ妻。痛みと眠気で二人とも限界だった。男は情けない。ただそばにいて、眠気をこらえ、背中をさすることしかできない。何度か様子を見てきてくれた看護婦が、それでもまだ陣痛が弱いという。薬を使うことにした。

激しくなる痛みにたえきれず声をあげる。朝八時すぎに分娩室に入る。「一緒でもいい」と言われるが、自分には勇気がなくそのまま残る。

何度も何度も聞こえる叫び声。ただひたすら手を合わせ神に祈る。もうこの世にいない義父の名も呼んだ「助けてくれ」と。

九時頃「おめでとう」という先生の大きな声。涙が出た。窓の外は真っ白な雪景色。渋滞でつながる車の列。わけもわからず泣いた。涙があふれて止まらない。無事に子供が生まれた。変わることなく血はめぐりめぐる。今まで生きていたことをすべてを神に感謝した。

看護婦に呼ばれ、分娩室に入る。横たわる妻がいる。うるんだ瞳で最高の笑顔がそこにあった。涙をぐつとこらえ「ごくろうさま」と声をかける。また最高の笑顔が戻ってくる。

女は強い。その時本気でそう思った。

「栄弥」と名付けた子供は元気に育っている。元氣すぎて夜寝ないこともありあれからずっと睡眠不足が続いている。それでもたまに見せる“微笑”にやすらぎを与えてくれる。四人家族になり年もとったがこの幸せが続くだけでいいと思う。

## イーハトーブの森だより

大雪が続くなか時にはまつ青に晴れる日があります。くつきりと白銀の山々が浮かび上る時、大いなる感動を覚えます。

賛助会員、銀河倶楽部のご協力のおかげで一年間何とか無事のり切ることができました。心から御礼申し上げます。

お風呂も24時間風呂、常時温泉に入れるよう改造しましたので、ぜひお出かけ下さい。お知り合いにもぜひおすすめ下さい。

四月からまた若い人たちがお世話をさせていただきます。お待ちしております。

※一泊二食 六、五〇〇円

※申し込み先 天白ワークス 加藤か  
イーハトーブの森まで

「」寄付ありがとうございました  
ございました  
(順不同)

電電名古屋ボランティア一同様

澤田 昭勝様

安藤 昭二様

野々辺 美智代様

東山キリスト協会 玉木 功様

佐藤 兼夫様

嶋崎 正視様

山本 明子様

山田 和子様

岩田 三千栄様

名東福祉会後援会

会長 井口 和義様

後援会費ご入金  
ありがとうございました。

(順不同)

林 俊和様

河津 光子様

振込先

名古屋8 9556

社会福祉法人 名東福祉会

メイトウ・ワークス

(通常払込料金)  
加入者負担



訂正

先号68号にて、座談会の欄渡邊友里さんは渡邊友理さんでしたのでここに訂正いたします。

### 編集後記

春季号よりWORKSの大きさを変えてみました。いかがでしょうか。表紙の桜を始め、これからはますますいろいろな花が楽しめます。ゆつくりと花を見ながら散歩するのもいいですね。それでは次号は七月夏季号でお会いしましょう。  
(あい)

社会福祉法人  
名東福祉会

〒465 名古屋市名東区勢子坊2-1303

メイトウ・ワークス

〒465 名古屋市名東区勢子坊2-1303  
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

天白ワークス

〒468 名古屋市天白区御前場町327  
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

ディケア はまなす

〒465 名古屋市名東区高針台1-911  
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

ぐるーぷ ゆめや

〒465 名古屋市名東区文教台1-1322  
TEL 052(774)6100 FAX 052(774)6100

# WORKS

ISSUE69 1997.

SPRING

1997年4月10日発行